

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①主体的・対話的で深い学びを実現するとともに、ICTの活用を通して基礎学力を伸ばす。 ②「福祉の心」を育み、他者と協働して地域社会に貢献し、共生社会の実現に資する人材を育成する。	①学校DXの推進を通して、生徒が学習に対して主体的に取り組み表現するなどの、深い学びの方策を検討し、構築する。 ②福祉に関する教育活動をさらに充実させ、「他者を思いやる力」「他者から学ぶ力」「他社と協働して地域社会に貢献する力」を身に付けさせる。特に、同敷地内にあるティーサービスセンターとの交流の充実を図る。	①学校DXに必要な環境を整備し、校内外の教育資源やICTを積極的に活用し、基礎学力を伸長させ、表現力を育成する教育方法を検討し構築する。 ②専門福祉、総合的な探究の時間、選択科目、課外のボランティア活動など、福祉に関する教育活動の機会を多く設定する。また、ティーサービスセンターとの交流の機会を増やすことができる。	①ICTを有効に活用する環境整備を進めたか。ICTを活用することにより、表現力を育成できることができたか。 ②生徒が福祉に触れる機会を多く設定することができたか。ティーサービスセンターとの交流機会を増やすことができたか。					
2	生徒指導・支援	①生徒の自己指導能力と他者を尊重する姿勢を育成し、問題行動の未然防止を図る。 ②生徒の特性を多面的に理解し、生徒の特徴や教育的ニーズに即したより適切で必要な支援体制の充実を図る。	①生徒の自己指導能力と他者を尊重する姿勢を育成するため、日常生活・集会・学年での講演会等あらゆる場面で他者を意識した行動・言動の理解・浸透を図る。 ②SC、SSW、スクールメンターや外部機関との円滑な連携を図るとともに、適切な連携先の周知、共有を行い、職員全体で活用できる教育相談体制の充実を図る。	①生徒の自己指導能力と他者を尊重する姿勢を育成するため、日常生活・集会・学年での講演会等あらゆる場面で他者を意識した行動・言動の理解・浸透を図る。 ②SC、SSW、スクールメンターや外部機関との円滑な連携を図るとともに、適切な連携先の周知、共有を行い、職員全体で活用できる教育相談体制の充実を図る。	①学校生活におけるルールを浸透させるとともに、交通安全教育について、日ごろのクラスでの呼びかけを含めた教育活動をより積極的に実施する。 ②SC、SSW、スクールメンターの役割について周知を行うとともに、児童相談所などの活用できる外部機関との連携をさらに進める。	①学校生活において、生徒に自らを律して行動させ、指導件数の減少につながったか。交通事故の件数が減っているか。 ②SC、SSW、スクールメンターとの情報共有、ケース会議、児童相談所やフードバンクを含めた外部機関との連携などを実践できたか。				

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①基本的生活習慣を確立するとともに基礎学力を伸長し、個性を伸ばすキャリア教育を推進する。 ②通級による指導を実践し、特性による学習上及び生活上の困難の改善、克服をめざす。	①生徒一人ひとりの個性を尊重しながら、社会的・職業的な自立に向けて、主体的に取り組めるキャリア教育を推進する。 ②通級による指導や教育相談をはじめとした支援体制を充実させ、生徒一人ひとりに応じた支援を実現する。	①-1 各学年に適した進路支援ワーク・ツール等を活用し、学年に応じた主体的に行動する力を育成する。 ①-2 外部連携を強化しながら進路支援プログラムの充実を図り、すべての生徒がより良い進路選択ができるよう支援する。 ②生徒の特性等の情報を共有するとともに、SC、SSW、スクールメンターと連携した支援を行う。また、「NISE学びラボ」を活用する。	①-1 進路支援ワーク・ツール等を活用し、学年に応じた主体的に行動する力を育成することができたか。 ①-2 外部連携を積極的に推進し、生徒の進路選択につなげる活動ができたか。 ②職員、SC、SSW、スクールメンター間の情報が共有されているか。「NISE学びラボ」が活用されているか。					
4	地域等との協働	①地域等との持続可能な協働活動を推進し、未来社会で生きる必要な力の育成と生徒活動の質の向上を図る。 ②PTAや地域等と連携して活動の場を充実し、地域社会と協働する意識を高める。	①生徒会活動・部活動・委員会活動を通じて地域社会の一員としての意識を醸成し、地域と共に歩む学校づくりをする。 ②PTA、綾瀬市や地域団体などとの連携を図り、生徒が自主的に参加し、協働できる場の実現を図る。	①文化祭などの学校行事において地域と協働し、さまざまな活動を行うなど、生徒が主体的に地域と共に歩む自覚を生徒に持たせる。 ②PTA、綾瀬市や地域団体などと連携・協働する行事の幅を広げる。	①文化祭などの学校行事において、生徒の主体性を活かし、地域に対して働きかけを行うことができたか。地域と共にを行う活動を実現できたか。 ②PTAや地域と協働する活動の実現を図ることができたか。					
5	学校管理 学校運営	①学校運営協議会委員等、地域の多様な人材の意見を集め、社会に開かれた安全で安心な学校づくりをめざす。 ②組織的、計画的、継続的に校内研修を行い、教員の資質と学校の教育力の向上をめざす。	①社会に開かれた安全で安心な学校づくりに向けて、学校運営協議会制度を活用し、教育活動の充実につとめる。 ②-1 教職員の支援教育や人権教育に係る校内研修を計画的に実施する。 ②-2 働き方改革を組織的に推進する。	①学校運営協議会において、意見聴取や情報収集の機会を設け、改善につなげる。 ②-1 研修の成果から、重点的な課題を絞り、共有を重ねることで、教職員のスキル向上を図る。 ②-2 働き方改革の指針を全職員が理解し、主体的に実践する組織づくりを推進する。	①学校運営協議会からの提案を整理、共有、実現することができたか。 ②-1 支援教育や人権教育に係る重点課題を共有し、生徒への支援を充実させることができたか。 ②-2 働き方改革への理解を向上させ、ウェルビーイングの向上につなげることができたか。					